様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　6　月　9　日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007～2009
課題番号：19730327
研究課題名（和文）ネオリベラル多文化主義の台頭と移民の社会的排除：現代オーストラリアの社会学的研究
研究課題名（英文）The emergence of neoliberal multiculturalism and social exclusion of immigrants: a sociological study on contemporary Australia

研究代表者
塩原　良和（SHIOBARA YOSHIKAZU）
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：80411693

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は、ネオリベラリズムと呼ばれる経済・社会体制の台頭が多民族・多文化化する先進諸国に与える影響を考察することにあった。そのために、1970 年代から多文化主義を国家理念として掲げつつ、1980 年代以降ネオリベラル改革が急速に進行した国家であるオーストラリアの事例研究を行った。その結果、ネオリベラリズムが多文化主義の言説・政策に与えた影響を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this research project was to examine the impacts of neoliberalism on multicultural societies, and I carried out a case study on Australia. Australia has operated multiculturalism as public policies since the 1970s, but at the same time it launched rapid neoliberal reformation in the 1980s. My research analyzed the details of influences of the reformation on multiculturalism as public policies in Australia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,400,000	0	1,400,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	540,000	3,740,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：(1)多文化主義(2)新自由主義(3)オーストラリア(4)移民(5)支援

１．研究開始当初の背景

オーストラリアの多くの研究者が、ネオリベラリズム（新自由主義）のオーストラリア社会への影響について論じてきた。Gøsta Esping-Andersen の国際比較分析によれば、1980 年代以降のオーストラリアは、規制緩和・市場主導路線の経済社会改革を優先する「新自由主義ルート」型国家のひとつであった。その結果、Philip Mendes が指摘するように、オーストラリアでは社会保障・福祉政

策予算の抑制やサービス利用者の選別化・厳格化が進んだ。また Michael Pusey は、連邦政府のエリート官僚たちのあいだに自由市場重視、小さな政府への志向、個人主義といった思考様式が、社会民主主義・福祉国家重視の考え方に変わって広まっていったことを明らかにした。Pusey は別の著作で、ネオリベラリズムの台頭が社会的格差の拡大などをもたらし、オーストラリア社会全般に大きな影響を及ぼしていると指摘している。

Ghassan Hage や関根政美は、ネオリベラリズムの台頭がオーストラリアの多文化主義を変質させたと主張する。すなわち、下層労働者階級移民の権利を福祉国家政策によって保障しようとした福祉多文化主義が、グローバル資本に付随して移動するミドルクラス移民を経済的国益の観点から積極的に受け入れようとするネオリベラル多文化主義に凌駕されつつあるというのである。その結果、下層移民は社会保障・福祉の対象ではなくなり、社会的に排除されていくことになる。Hage や関根の主張は、オーストラリアのみならず現代世界における多文化主義理念・政策のあり方を考察する上で極めて示唆に富むものである。ただし、彼らの議論は問題提起の域にとどまっており、その実証的な検討は今日の多文化主義研究における重要な課題であるといえよう。

応募者はネオリベラリズムが多文化主義に与える影響について、主にオーストラリアを事例として研究を進めてきた。2005 年 12 月に刊行された単著では、オーストラリアの公定多文化主義イデオロギーが福祉多文化主義からネオリベラル多文化主義へと変質していくプロセスを、言説分析に依拠して明らかにした。またイデオロギー・言説レベルの分析と並行して、オーストラリア各地のアジア系移民コミュニティを対象とした聞き取り調査・参与観察を実施してきた。その結果、多文化主義のネオリベラル化の実態を言説面だけではなく実証的にも明らかにすることが、オーストラリアの多文化主義政策や移民コミュニティのあり方の変容を理解する上で極めて重要であるという示唆を得た。

２．研究の目的

本研究の目的は、ネオリベラリズムと呼ばれる経済・社会体制の台頭が多民族・多文化化する先進諸国に与える影響を考察することにあった。そのために、1970 年代から多文化主義を国家理念として掲げつつ、1980 年代以降ネオリベラル改革が急速に進行した国家であるオーストラリアの事例研究を行った。現地調査を実施しつつ、社会保障・福祉政策の分析やエスニック・コミュニティを対象とした質的・量的調査といった多様な手法による社会学的な分析を行うことで、ネオリベラリズムの台頭とともに「ネオリベラル多文化主義」と呼びうる理念・政策が出現し、それがオーストラリアにおける移民をめぐる社会状況に大きな変化をもたらしていることを実証的に明らかにすることを試みた。具体的な研究課題は以下の３点であった。

(1) 多文化主義的社会保障・社会福祉政策の変容

オーストラリアにおけるネオリベラル多文化主義の台頭が、移民に関する社会保障・福祉政策にどのような影響をもたらしているのかを明らかにする。具体的には、オーストラリアの移民定住支援における重要な柱であった Migrant Resource Centre や Community Settlement Service Scheme といった制度が 2005 年に抜本的に変更されたことに注目し、この政策的変化が移民向け公共サービスの現場に実際にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。

(2)移民内部の社会的格差の拡大

ネオリベラル多文化主義の台頭に伴って発生する、ミドルクラス移民と下層・労働者階級移民間の社会的格差の拡大の実態を把握すべく社会学的調査を行う。具体的には、オーストラリアにおけるアジア系移民人口の集中するシドニーにおける労働者・下層階級移民集住地区において、エスニック組織の指導者や地域の多文化 NGO などへの聞き取り調査を行う。

(3)出入国管理政策の選別化

ネオリベラル多文化主義の台頭がオーストラリアの出入国管理政策に及ぼしている影響を明らかにする。具体的には、2000 年代になってから厳格化し、社会問題となっている連邦政府による難民申請者政策を事例として取り上げ、その政策決定・遂行課程と社会的帰結を分析する。

３．研究の方法

これらの研究課題にたいして、以下のような方法によって調査・分析を行った。

(1) 多文化主義的社会保障・社会福祉政策の変容

①文献資料の収集・分析：オーストラリアの移民定住支援政策といった多文化主義に関連する分野におけるネオリベラリズムの影響について、関連する公文書の収集・分析を行った。

②現地調査：2007 年 8 月にオーストラリアでの現地調査を実施し、シドニー、キャンベラ、メルボルンなどを訪問して現地の移民定住支援施策のワーカー、市民活動家、および行政関係者などへの聞き取りを行っ

た。

(2)移民内部の社会的格差の拡大
①文献資料（統計データ）の収集・分析：オーストラリアにおける移民の多様化・階層分化の問題についての先行研究を収集・分析した。
②現地調査：2008 年 2 月にオーストラリアでの現地調査を実施し、シドニー、キャンベラ、メルボルンなどを訪問して現地の移民定住支援施策のワーカー、市民活動家、および行政関係者などへの聞き取りを行った。

(3)出入国管理政策の選別化
①文献資料の収集・分析：オーストラリアの難民申請者政策についての文献資料を収集・分析した。
②現地調査：08 年 7 -8 月および 8 -9 月、そして 09 年 3 月の計 3 回にわたりオーストラリアで現地調査を実施した。現地では移民定住支援組織、エスニック組織、行政などの関係者への聞き取りを行ったほか、一般のアジア系住民家庭に伺い話を聞くなどの貴重な経験を得た。

(4)補足調査
平成 19・20 年度の調査で生じた新たな課題を調査するため、オーストラリアでの補足調査を平成 21 年 8 月と 22 年 3 月の 2 回に分けて実施した。

４．研究成果
(1)平成 19 年度においては 1 冊の編著をはじめとしていくつかの成果物を刊行することができた。こうした成果物は現地における調査・資料収集を基盤としつつ、社会保障政策の分析やエスニック・コミュニティを対象とした質的・量的調査といった多様な手法による分析を行うことで、ネオリベラリズムの台頭とともに「ネオリベラル多文化主義」と呼びうる理念・政策が出現し、それがオーストラリアにおける移民をめぐる社会状況に大きな変化をもたらしているプロセスを明らかにするという研究の重要な端緒をなすものであった。

(2) 平成 20 年度には、前年度実施した調査から得られたデータを検討し、そこから移民定住支援サービスに関する興味深い変化の存在を予測し、それを現地調査で検証することができた。こうした成果をもとに、学会・シンポジウムでの発表および雑誌や図書の刊行を行った。とりわけ、1 冊の共著を刊行できたことは大きな成果であった。これらの研究成果では、移民支援サービスの現場で起こっていた新自由主義的な「改革」のあり方や、それがもたらした影響を詳細に分析したが、新自由主義的「改革」よって露呈されたオーストラリア多文化主義の限界を乗り越える、オルタナティブの模索に関する構想も、こうした研究から得ることになった。

(3) 平成 21 年度は研究成果を多くの機会で発表し、そこでの意見交流を研究の内容に反映させる機会をもつことができた。とりわけ国外の学会で研究成果を報告し、各国からの討論参加者と有益な意見交換を行うことができた。またフリンダース大学のアンソニー・エリオット教授、チャールズ・スタート大学のジェーン・ミルズ教授など、新たなに交流が生じた現地研究者と有益な意見交換をすることができた。そして、３年間の研究の成果を単著としてまとめる作業に本格的に取り掛かった。出版社は法政大学出版局に決まり、21 年度後半には原稿を順調に執筆し、22 年半ばには公刊予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計８件）
①塩原良和「ネオリベラル多文化主義とグローバル化する選別／排除の論理」『社会科学』（同志社大学人文科学研究所）第 86 号、2010 年、63 -89 頁、査読有

②塩原良和「『統合』の論理から『対話』の論理へ？――オーストラリア多文化主義研究の展開」『法学研究』（慶應義塾大学法学部）第 83 巻 2 号、2010 年、95 -127 頁、査読無

③塩原良和「オーストラリアの移民受入政策の現状と課題――『言語』の観点から」春原憲一郎編『移住労働者とその家族のための言語政策――生活者のための日本語教育』ひつじ書房、2009 年、121 -146 頁、査読無

④塩原良和「あらゆる場所が『国境』になる――オーストラリアの難民申請者政策」『Quandrante』（東京外国語大学海外事情研究所）No. 10、2008 年 3 月、151 -164 頁、査読無

⑤塩原良和「ネオリベラル体制下における多文化主義の再編――オーストラリアの事例から」『社会学年誌』（早稲田社会学会）第 49 号、2008 年 3 月、55 -69 頁、査読有

⑥塩原良和「『改革』される多文化主義――オーストラリアにおける移民政策の変容とネオリベラリズム」鶴本花織・西山哲郎・松宮朝編『トヨティズムを生きる――名古屋発カルチュラル・スタディーズ』せりか書房、

2008 年、99-109 頁、査読無

⑦塩原良和「多文化主義国家オーストラリア日本人永住者の市民意識――白人性・ミドルクラス性・日本人性」関根政美・塩原良和編『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶應義塾大学出版会、2008 年、143-161 頁、査読有

⑧塩原良和「共有されるニーズと，分断されるリアリティ――シドニー北部のアジア系中間層移民への行政サービスと共生への課題」『共生社会システム研究』第 1 巻 1 号、2007 年 6 月、52-70 頁、査読有

〔学会発表〕（計 13 件）

① Shiobara, Yoshikazu, ‘Re-Examining ‘Tabunka Kyosei" In Contemporary Japan: From the Viewpoint of Australian Experiences,’ at the panel session ‘North Easy Asia in Motion: The Social and Cultural Dimensions of Regional Migration Ⅰ,’ International Convention of Asia Scholars 6, Daejeon Convention Center, Korea, August 7, 2009.（英語にて口頭発表）

② Shiobara, Yoshikazu, ‘A Theoretical perspective on “Border crossing”: the change of Japanese communities in Australia,’ at the panel session ‘Shifting implications of “border crossing”: sociological/anthropological perspectives on contemporary transnational movements of people between Japan and Australia,’ Japanese Studies Association of Australia - International Conference on Japanese Language Education (JSAA-ICJLE) International Conference 2009, The University of New South Wales/The University of Sydney, Australia, July 15, 2009.（英語にて口頭発表）

③塩原良和「『国際社会学』を問い直す――多文化主義研究の視座から」三田社会学会 2009 年度大会シンポジウムⅠ（於：慶應義塾大学）2009 年 7 月 11 日（口頭発表）

④塩原良和「ネオリベラル多文化主義と変容する『選別／排除』の境界」関西学院大学大学院社会学研究科大学院 GP「＜承認＞の社会学的再構築」研究班主催　第 1 回＜承認＞のフロンティア研究会報告（於：関西学院大学）2009 年 6 月 28 日（口頭発表）

⑤塩原良和「オーストラリアの『多文化主義』から見る、日本の『多文化共生』――変容する『選別／排除』の境界」オーストラリア学会主催（豪日交流基金助成）同志社大学公開シンポジウム「人種主義・植民地主義・多文化主義のポリティクス――オーストラリアと日本の経験」報告（於：同志社大学）2009 年 6 月 27 日（口頭発表）

⑥塩原良和「福祉多文化主義とその『改革』――オーストラリア・シドニーにおけるフィールドワークから」大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター　2009 年度研究センター会議研究報告会報告（於：大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター）2009 年 5 月 30 日（口頭発表）

⑦塩原良和「オーストラリア多文化主義の変容――理論的イシューの整理」国立民族学博物館共同研究「オーストラリア多文化主義の過去・現在・未来――共生から競生へ」研究会報告（於：国立民族学博物館）2008 年 11 月 9 日（口頭発表）

⑧塩原良和「『連帯としての多文化共生』に向けて――試論的考察」出版記念の集い『日本における多文化共生とは何か――在日の経験から』第二部パネルディスカッション「新自由主義の時代における多文化共生について」報告（於：川崎市教育文化会館）2008 年 7 月 21 日（口頭発表）

⑨塩原良和「『改革』される多文化主義――オーストラリアにおける移民定住支援政策の変容とネオリベラリズム」オーストラリア学会第 19 回全国大会一般個別研究報告（於：追手門学院大学）2008 年 6 月 8 日（口頭発表）

⑩塩原良和「『変革』を構想する――オーストラリアのアジア系専門職移民による市民活動の可能性と課題」2007 年度慶応義塾大学 COE-CCC 国際シンポジウム「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成－多文化世界における市民意識の動態－」グループセッション「オーストラリアにおけるアジア系専門職移民の市民意識」報告（於：慶應義塾大学）2007 年 11 月 25 日（口頭発表）

⑪ Shiobara, Yoshikazu, ‘The Limit of Anti-essentialism in Australian Multiculturalism,’ at the panel session ‘Cultural Studies and its Relevance for Multicultural Policies Now’ Cultural Studies Now: An International Conference, University of East London, UK. July 21, 2007.（国際学会。英語にて口頭発表）

⑫塩原良和「あらゆる場所が『国境』になる――オーストラリアの難民申請者政策」

Cultural Typhoon 2007 in Nagoya パネルセッション報告（於：ウィル愛知）2007 年 7 月 1 日（口頭発表）

⑬塩原良和「ネオリベラル多文化主義の台頭と移民の選別／管理／排除――オーストラリアの事例から」関東社会学会第 2 回研究例会「現代の『保守』――何が新しいのか？」報告（於：立教大学）2007 年 4 月 7 日（口頭発表）

〔図書〕（計３件）

①塩原良和『変革する多文化主義へ――オーストラリアからの展望』法政大学出版局、2010 年（近刊）総頁数未定

②石井由香・関根政美・塩原良和『アジア系専門職移民の現在――変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会、2009 年、総頁数 195

③関根政美・塩原良和編『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶應義塾大学出版会、2008 年、総頁数 320

６．研究組織

(1)研究代表者

塩原　良和（SHIOBARA YOSHIKAZU）

慶應義塾大学・法学部・准教授

研究者番号：80411693

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし